

群 教 セ	G09 - 03
	令元.272 集
	英語一高

目的や場面、状況に応じて、英語で 即興的なやり取りを継続できる生徒の育成

—言語活動を活発にする Bell work を通して—

特別研修員 小池 瑞紀

I 研究テーマ設定の理由

高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）では、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報や自らの考えなどを英語のやり取りを通じて自主的、自律的に伝え合う姿勢の育成が求められている。また、研究協力校（以下、協力校）の 2 年生を対象に英語学習に関するアンケートをとった際にも、「グローバル化が進んでいる」と感じ、「外国人と英語でコミュニケーションをとりたい」と 90%もの生徒が回答し、英語が世界的に重要なツールであることをよく理解している。

しかし生徒の抱える課題として、自分の意見や考えを伝えることが苦手である点、語彙や文法知識が不足している点、日常生活で英語を発する機会が少ない点が挙げられ、そのため英語を使うことに自信がもてない様子がうかがえる。そこで授業のチャイム前後にスピーキングとライティングの帯活動（以下、*Bell work）を取り入れ、生徒が考えや意見を伝える機会（2 分間会話を継続させるロールプレイ）と、考えや意見を論理的に書いてまとめる機会（自分の意見を表現するライティング）を設定する。その言語活動を繰り返すことで、英語での即興的なやり取りを継続できるようになることを目指し、上記のテーマを設定した。

※チャイム【=Bell】が鳴る前後の帯活動のこと。本研究では、授業開始時のチャイム直後の言語活動を「Bell work 1」とし、授業終了時のチャイム直前の言語活動を「Bell work 2」とする。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

即興的なやり取りを継続するためには、実際にやり取りを必要とする機会を設定するとともに、生徒自らが伝えたい内容をより分かりやすく伝えるためにはどうすればよいかを試行錯誤する必要がある。そこで、以下の二つの手立てを用いる。

手立て1 2分間会話を継続させるロールプレイ (=Bell work 1)

	第一段階 (1学期)	第二段階 (2、3学期)
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身に関することを伝える。 ・相手に聞きたいことを質問する。(Q&A) 	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた情報を基に、その人物になりきって受け答えをする。(ロールプレイ) ・設定された場面に応じて、やり取りを行う。
指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアでのやり取りを2分間継続できるように、質問リストを用意する。 ・質問に対してどのように答えるかを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで2分間の即興的なやり取りを継続できるように、場面や状況を設定する。 ・様々な人物のプロフィールを用意して、その人物になりきったり他者を意識したりできるようにする。

手立て2 自分の意見を表現するライティング (=Bell work 2)

学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだことや教師の発問に関して、自分の意見を記述する。 ・自分の考えや意見を、接続表現や具体例を用いて分かりやすく伝える。
指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・分量は2～3文程度から始め、徐々に増やしていく。 ・接続詞 (Because や Although など) や例示表現 (For example など) を紹介する。 ・First…、Second… などの表現を用いて、論理展開について考えさせる。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- Bell work 1 の中で、即興的なやり取りの練習を積み重ねるうちに、相手の質問を瞬時に理解して即興的に受け答えをしようとするようになった。最初は単語で答えていた生徒も、友人の受け答えを聞いて次第に文章で答えられるようになったり、理由を付け加えることができるようになったりという変化が見られた。更に友人同士で練習を行うことで、新たな表現方法を発見したり、自分にはない価値観や考え方に触れることができたりして、視野が広がったと答えた生徒は98%となり、自身の意見が徐々に深いものとなっていったことは大きな成果と言える。
- Bell work 2 で自分の意見を日本語から英語に変える活動を繰り返し行っていくうちに、80%以上の生徒が日本語に頼ることなく英語で意見を書き始めるようになり、まとまりのある文章を論理の展開を意識して記述することができるようになった。授業後に実施したアンケートにも、自分の意見がもてるようになって英語力に自信が付いたと生徒全員が回答した。さらに、Bell work 2 で養われた力は、教科書を要約する際や英作文をする際にも生かすことができおり、自分の言葉で表現しようとしたり、接続詞を効果的に用いて記述しようとしたりするといった意欲的な態度が見られた。このように、自信をもって自分の意見を論理的に表現できるようになった点は大きな成果と言える。

2 課題

- 英語に対する自信を向上させていった反面、同じ表現を何度も用いたり、模範例をそのまま言ったりすることで満足している生徒や、中学1、2年生レベルの表現の使用にとどまる生徒も見られた。今後は、授業で学んだ言語材料が、目的や場面に応じて有効な表現であることに気付かせ、生徒が用いる表現の幅を広げていく工夫が必要であると感じた。
- 生徒の使用する英語を読んだり聞いたりすると、意味は予想することができるが文法的には明らかな誤りがあり、それに気付かず使っているケースが多く見られた。細かい部分を指摘しすぎると生徒は萎縮してしまいがちだが、より正確な表現を論理的に伝えることができるように、まずは自らがその間違いに気付き正確性を高めていきたいと思えるような指導をする必要があると感じた。

実践例

1 単元（題材）名 「Lesson 7 An Encouraging Song」（第2学年・2学期）

2 本単元（題材）について

本題材は、音楽が与える力や曲に込められたメッセージについて扱う。生徒自らが励まされる曲を選び、その理由を論理的に記述したり、発表したりすることで英語を用いる機会を増やすことができる。また、毎時間の授業で行われる Bell work を通して、友人からの質問に不自然な間を作らずに答えたり、自分の考えを説明したりすることで、即興的なコミュニケーションを継続する力を育成することにつながる。さらに、音楽以外の作品についても触れることで、自分の考えを論理的にまとめ、自分の言葉で表現することができ、場面に応じた即興的なやり取りを継続できる力の育成に向けて本題材を学習する価値は大きい。

以上のような考えから、本題材では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	自分の意見を整理して、段落ごとの要点を論理的に記述することができる。また、友人の発表を聞いて、適切な質問をしたり、質問に対して即興的に答えたりすることができる。	
評価 規 準	関心・意欲・態度	ZARDの「負けないで」を通じて音楽が与える影響力に関心をもち、自らの考えを意欲的に伝えようとしている。
	外国語表現の能力	自分の考えを表現する際に、適切な表現方法や文法、語彙を選び、相手に分かりやすく伝えている。また、尋ねられた質問に対して適切に応答している。
	外国語理解の能力	相手の発表内容を把握している。また、尋ねられた質問の内容を理解している。
	言語や文化についての知識・理解	坂井泉水さんの歌に対する思いや、音楽が与える影響について理解している。また自身の考えを表現する際に必要な文法や語彙の知識を有している。
過程	時間	主な学習活動
課題 把握	第1時 ～ 第3時	<ul style="list-style-type: none"> ・ZARDの「負けないで」や他の曲を聴いた感想や、坂井泉水さんが歌詞に込めた思いを考え、整理して英語で述べる。 →Bell work 1, 2を行う。
課題 追究	第4時 ～ 第9時	<ul style="list-style-type: none"> ・“My Recommended Movie”をrewriteさせ、友人同士で質問し合う。 ・“My Encouraging Book/ Comic book/ Anime”と題して簡単な紹介文を作り、発表する。また質疑応答のリハーサルを行う。 →Bell work 1, 2を行う。
ま と め	第10時 ～ 第12時	<ul style="list-style-type: none"> ・“My Encouraging Song”の原稿を書き、より分かりやすくrewriteしたものを発表する。また、それについて質疑応答を行う。 →Bell work 1, 2を行う。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全12時間計画の第12時に当たる。My Encouraging Songについて発表し、それに関して質疑応答を行う。Bell workの継続が、本時の目標である聞き手を意識した論理性のある文章で自分の考えを伝え、その後の質疑応答で即興的なやり取りができるように、次のように手立てを具体化した。

手立て1 2分間会話を継続させるロールプレイ（Bell work 1でのやり取りの練習を通して）

Bell work 1で継続して行ってきた実際の場面を想定したロールプレイを、My Encouraging Songの発表後の質疑応答に生かす。聞き手は話し手の発表を聞き取って疑問に思ったことを質問し、話し手はその質問を瞬時に理解して即興的に回答をする。

手立て2 自分の意見を表現するライティング（Bell work 2での意見記述を通して）

Bell work 2を継続することで学んできた論理性のある文章の書き方を、実際に意見記述をする際に用いる。読み手を意識して分かりやすく伝えるためには、どのような表現を取り入れるべきなのかを考え、接続表現を効果的に使うことや例示表現を用いて分かりやすく述べることを意識して英文を書く。

4 授業の実際

(1) Bell work 1【設定された場面と人物に基づいたロールプレイ】

生徒は教師が設定した場面（このときは高崎駅のカフェで会話をしているという設定）の下、指定された人物になりきって2分間のロールプレイを行う（図1）。生徒は人物の情報が書かれたリスト（図2）を持っており、その情報を読み取って指定された人物になりきり、会話を継続させる。場面や演じる人物に合った質問を投げ掛けたり、即興で答えたりする。



図1 Bell work 1の様子

 Name Maria Nationality Italy Age 19	Favorite food	gelato, pizza, spaghetti
	Favorite movie	Roman Holiday, Romeo and Juliet
	Recommended place	Milan, Florence
	Occupation	university student (major: art)
	Language skills	Italian, French, German

図2 人物の情報が書かれたリストの一部

(2) 自分の意見を整理して、論理的に述べる【My Encouraging Songの執筆と発表】

生徒は前時においてMy Encouraging Songについての紹介文を書き、その際、順序立てて説明することを意識させた。その後、ALTによる添削を受け、rewriteを行った（図3）。ここでは、例示表現や接続詞を使って内容に厚みをもたせる工夫をするよう指示した。また、発表する際には聞き手に対してアイコンタクトや簡単なジェスチャーを取り入れることを意識させた。

My encouraging song is "FIGHT MUSIC". This song is sang by "SEKAI NO OWARI". I think this song is a perfect song. I have two reasons. First, the lyrics of "FIGHT MUSIC" are very good. The lyrics of this song were written by Fukase, the vocalist of "SEKAI NO OWARI". I listened to this song and I really impressed by the lyrics. The song gave me motivation. I want to try many things without hesitation.	→	My encouraging song is "FIGHT MUSIC". This song was sang by "SEKAI NO OWARI". I think this is perfect. I have two reasons. First, the lyrics of this song are very good. They were written by Fukase, the vocalist of "SEKAI NO OWARI". When I listened to this song, I was really impressed by the lyrics. Also, the song gave me motivation. So, I want to try many things without hesitation.
--	---	--

図3 生徒が書いた発表原稿の一部（右はALTによる添削後）

(3) 即興的なやり取りを行う【発表に関する質疑応答】

My Encouraging Songの発表後に質疑応答を行う。生徒は疑問文を作ることを苦手としているため、補助プリントであるQuestion List（図4）を配付し、その中から質問を自由に選択する形式を取った。発表に対する感想を述べた後、質問を一つ選んで発表者に投げ掛ける。発表者側には質問を聞き取って即興で答えることが求められる。また、聞き手は評価シート（図5）に各発表者の評価を記入することで、聞く態度を意識しながら発表を集中して聞くことができた。

I think your essay is (really interesting / quite nice / wonderful). I have one question. 1. I think there are many good (phrases / lyrics / scenes / chapters) in it. What (phrase / lyrics / scene / chapter) do you like best?

図4 Question Listの一部

	Speaker 1	Good: 3 So-So: 2 Try hard: 1
Attitude		The speaker is reading the essay in a loud and clear voice.
		The speaker is using eye contact or gesture.
		The speaker is eager to communicate with the listener.

図5 評価シートの一部

(4) Bell work 2【自分の意見や考えを記述する】

生徒は授業での活動や教師の投げ掛けた問いに関して、自らの意見をワークシートに記述する。その後、数名の生徒を指名して意見を発表させ、全体で共有する。まずは日本語で意見を書いてから英語に直す形式を取っているが、多くの生徒が英語で書き始めるようになった（図6）。

日本語で感想を書こう。		New words & phrases . .
Write your opinion in English.	I think the speaker's intonation is most important points. If speaker is bad intonation, we can't quite catch what speaker's said.	

図6 生徒が書いた感想（英語で書き始めたもの）

5 考察

(1) Bell work 1でのやり取り

授業後にアンケートを実施し、Bell work の帯活動を行う前と現在との変化を聞いたところ、全員の生徒が自分の意見がもてるようになったと感じている。また、自分の英語力に自信がもてるようになった生徒も増えた。アンケートでは、50%の生徒が場面や人物に合わせたやり取りを、論理性を意識しながらできるようになったと感じており、68%の生徒がまとまりのある文章を自分で考えてやり取りにつなげることができたと感じていた。また、この活動が授業内で友人と意見交換する場面のみならず、自分の意見を書く場面にも役立ったと感じている生徒が70%いることが分かった。実際に、「場面や人物に合うような受け答えができるようになった」「以前よりも即興的に受け答えができるようになった」「分かりやすく伝えることを意識するようになった」「友人の意見を聞いて新たな考え方や視点が発見できた」との意見が数多く見られたことから、友人とのやり取りの中で育まれた「分かりやすく伝える力」や「新たな考え方や視点」が自分の意見を記述する際にも生かされたのではないかと考える。

(2) Bell work 2での意見記述

95%の生徒が接続表現を用いて論理性のある文章を書くことができるようになったと感じており、50%以上の生徒が日本語に頼らず即座に英語で意見を書き始めることができるようになったと感じていた。また、自分の意見を伝える場面においても、意見記述の活動が役に立ったと95%もの生徒が回答していることも分かった。実際に、「意見を整理することで自分の言いたいことが明確になった」「接続詞を意識して文章が書けるようになった」「どのように表現すれば伝わるのかを考えるようになった」との効果を感じることができた意見が数多く見られたことから、意見を一旦記述して可視化させることで、自身の意見を整理することができ、それを積み重ねることで論理的思考力が鍛えられ、発話の場面にも生かされたのではないかと考える。

上記のことから、生徒に考えさせるような教材を授業内で提示し、他者とのやり取りや意見記述の活動を取り入れることで、それぞれの活動がより活性化し合う状況が授業内に生まれた。そして、その活動が繰り返されることによる相乗効果は、スピーキング力とライティング力の両方を向上させることにつながった。Bell work を取り入れたことで、自分の意見がもてるようになって自信が付くと同時に、自分の意見を整理して論理的に相手に伝えたり、目的や場面、状況に応じて即興的な受け答えをしたりする力が身に付き、英語でのやり取りを継続できる力が養われたと言える。